

国際コンベンション都市・横浜 2年連続で参加者総数が**全国第1位**！ ～2008年国際会議(コンベンション)統計～

本日、日本政府観光局(JNTO)が2008年に日本で開催された国際会議(コンベンション)(*注1)の統計を発表しました。この統計は年に1回発表され、日本における国際コンベンション開催実績の指標となるものです。(詳細は別紙参考資料を御参照ください。なお、日本政府観光局(JNTO)では、2008年(今回)の統計から名称を「国際コンベンション統計」から「国際会議統計」に改めています。)

横浜は、国内では主要な指標において第1位、または東京に次いで第2位以上の実績を示しています。また国際的にも、開催件数ベースで**世界第26位、アジア第5位、アジア各国の首都を除く都市の中では第1位**の地位を占め(*注2)、名実ともに国際コンベンション都市としての地位を確立しつつあります。

<参加者総数は230,474人で第1位>

都市別の参加者総数では、横浜は230,474人で、2007年から2年連続で第1位となりました。

		2008年(人)	2007年(人)	増加率(%)
参加者総数		230,474	182,487	26.3
内訳	国内参加者数	209,605	169,670	23.5
	外国人参加者数	20,869	12,817	62.8



第4回アフリカ開発会議(TICADIV)(2008年)

<開催件数は184件で第2位>

都市別の開催件数では、横浜は184件で、2006年の第6位、2007年の第3位から順位を上げ、東京(480件)に次いで第2位となりました。(対前年比17.2%増)

<「中・大型国際コンベンション」開催件数は49件で第2位>

日本全体で開催された国際コンベンションの件数は2,094件。中でも、参加者総数が300人以上、そのうち外国人参加者数が50人以上を占める「中・大型国際コンベンション」は317件となっています。

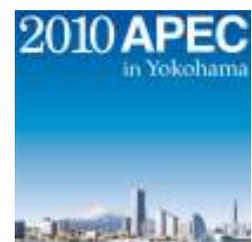
この「中・大型国際コンベンション」の開催件数では、横浜は49件で、東京(61件)に次いで第2位となりました。(対前年比32.4%増)

<会場別国際コンベンションの開催状況では「パシフィコ横浜」が全国第1位>

国際コンベンションを全国の会場別に見ると、参加者総数・外国人参加者数・開催件数の主要な3つの指標において、パシフィコ横浜が第1位となっています。(参加者総数198,885人、外国人参加者数16,275人、開催件数97件。)

	2008年	2007年	増加率(%)	国内占有率(%)
参加者総数(人)	198,885	166,768	19.3	18.5
外国人参加者数(人)	16,275	10,954	48.6	14.7
開催件数(件)	97	89	9.0	4.6

注)「国内占有率」は2008年の国内総計に対する占有率です。



【裏面へ続きます】

<経済波及効果について>

184 件のコンベンション参加者と主催者の消費活動による、市内への経済波及効果を、参加者人数を元に推計すると、市内発生需要額(*注3)は 144 億 7 千 3 百万円、市内誘発生産額合計(*注4)は 195 億 2 百万円と見込まれます。

<今後の国際コンベンションの誘致活動について>

現在、横浜市と財団法人横浜観光コンベンション・ビューローは、シティセールス効果と経済波及効果の高い、2010 年APEC(アジア太平洋経済協力会議)に代表される各種国際コンベンションの誘致活動を行っています。

その一環として、横浜観光コンベンション・ビューローでは、2009 年度から新たに①最高 1,000 万円を誘致段階で保証する「横浜国際コンベンション助成金制度」と、②市民ボランティアによる“おもてなし”で開催を支援する「横浜コンベンションサポーター制度」をスタートさせました。

激しい都市間競争の渦中であって、2010 年羽田空港再国際化による海外からのアクセスの向上など、横浜の魅力をアピールしながら、今後もコンベンション振興を進めていきます。

(*注1) 日本政府観光局(JNTO)国際会議統計による国際会議の選定基準

2008 年の統計から、名称を「国際コンベンション統計」から「国際会議統計」に改めています。

国際機関・国際団体(各国支部を含む)又は国家機関・国内団体(各々の定義が明確でないため民間企業以外は全て)が主催する会議で ・参加者総数が50名以上 ・参加国が日本を含む3か国以上 ・開催期間が1日以上 (企業内会議、研究機関が行う講義、投資・観光セミナー、研修会等は除外。)
--

(*注2) UIA(国際団体連合: Union of International Associations)による国際会議統計

日本政府観光局(JNTO)が作成する国際会議統計のほかに、UIA(国際団体連合: Union of International Associations)が発表する国際会議統計があります。UIAは、1907 年にベルギー・ブリュッセルにおいて設立された非営利・非政府の団体です。6 万を超える組織団体等に関わる情報の調査・収集・分析を行っており、その一環として、国際会議統計(UIA統計)を 6 月に(暫定)発表しています。

以下の条件を満たす会議が統計に反映されます。 (1) 国際機関・国際団体の本部が主催又は後援した会議 又は (2) 国内団体もしくは国際団体支部等が主催した会議で ・参加者数 300人以上 / ・参加国数 5か国以上 / ・開催期間 3日以上

(*注3) 市内発生需要額

いわゆる消費額を指します。例えば1万円の食事をした場合には、飲食店に同額の生産増(需要)をもたらすことになります。

(*注4) 市内誘発生産額合計

発生需要を満たすために、市内で生産された財・サービスの総額。産業別の売り上げに近い概念です。

【次紙へ続きます】

参 考 資 料

1 各都市別国際会議(コンベンション)参加者総数(上位10都市)

2008年			2007年		
都市	参加者総数(人)	占有率(%)	都市	参加者総数(人)	占有率(%)
1 横浜市	230,474	21.5	1 横浜市	182,487	20.1
2 東京(23区)	158,863	14.8	2 東京(23区)	153,088	16.9
3 福岡市	106,029	9.9	3 京都市	68,723	7.6
4 名古屋市	82,690	7.7	4 大阪市	66,712	7.3
5 京都市	65,200	6.1	5 神戸市	61,070	6.7
6 大阪市	56,060	5.2	6 名古屋市	58,381	6.4
7 神戸市	50,732	4.7	7 福岡市	51,619	5.7
8 千葉市	49,222	4.6	8 仙台市	39,518	4.4
9 札幌市	39,910	3.7	9 つくば地区	31,576	3.5
10 つくば地区	27,557	2.6	10 北九州市	24,560	2.7
国内計	1,072,163		国内計	908,078	

2 各都市別国際会議(コンベンション)開催件数(上位10都市)

2008年			2007年		
都市	件数(件)	占有率(%)	都市	件数(件)	占有率(%)
1 東京(23区)	480	22.9	1 東京(23区)	440	23.7
2 横浜市	184	8.8	2 京都市	183	9.8
3 福岡市	172	8.2	3 横浜市	157	8.4
4 京都市	171	8.2	4 福岡市	151	8.1
5 名古屋市	130	6.2	5 名古屋市	109	5.9
6 神戸市	94	4.5	6 神戸市	89	4.8
7 つくば地区	80	3.8	7 つくば地区	82	4.4
8 札幌市	77	3.7	8 大阪市	76	4.1
8 大阪市	77	3.7	9 仙台市	51	2.7
10 千葉市	67	3.2	10 札幌市	44	2.4
国内計	2,094		国内計	1,858	

3 各都市別「中・大型国際会議(コンベンション)」開催件数(上位5都市)

2008年			2007年		
都市	件数(件)	占有率(%)	都市	件数(件)	占有率(%)
1 東京(23区)	61	19.2	1 東京(23区)	63	20.1
2 横浜市	49	15.5	2 京都市	39	12.4
3 京都市	29	9.1	3 横浜市	37	11.8
4 福岡市	23	7.3	4 神戸市	21	6.7
5 大阪市	20	6.3	5 福岡市	19	6.1
国内計	317		国内計	314	

以上出典: 日本政府観光局(JNTO)国際会議統計
 (「増加率」及び「占有率」については横浜観光コンベンション・ビューローにて算出)

【裏面へ続きます】

4 UIA(国際団体連合: Union of International Associations)統計におけるアジア各都市別開催件数の推移

順位			2008年(件数)		順位			2007年(件数)		順位			2006年(件数)	
世界	アジア	国内			世界	アジア	国内			世界	アジア	国内		
1	1	—	シンガポール	637	1	1	—	シンガポール	465	3	1	—	シンガポール	298
6	2	1	東京	150	8	2	1	東京	126	11	2	—	ソウル	89
7	3	—	ソウル	125	9	3	—	ソウル	121	18	3	—	北京	80
24	4	—	北京	75	17	4	—	北京	88	24	4	1	東京	58
26	5	2	横浜	68	28	5	2	京都	62	31	5	—	バンコク	45
31	6	—	ブサン	60	28	5	—	バンコク	62	33	6	—	クアラルンプール	44
33	7	—	クアラルンプール	55	30	7	—	クアラルンプール	60	37	7	—	香港	41
40	8	—	香港	50	36	8	3	横浜	54	41	8	—	ブサン	37
42	9	—	ニューデリー	49	38	9	—	香港	51	47	9	—	チェジュ	33
43	10	—	上海	48	39	10	—	チェジュ	50	50	10	—	上海	32
47	11	—	チェジュ	44	45	11	—	ブサン	42	53	11	—	ニューデリー	30
50	12	—	バンコク	42	51	12	—	ニューデリー	39	72	12	—	台北	23
—	—	3	京都	34	56	13	—	上海	36	88	13	2	京都	19
—	—	4	神戸	31	59	14	—	台北	32	—	—	3	横浜	16
—	—	4	福岡	31	64	15	4	大阪	30	—	—	4	大阪	9
—	—	6	大阪	30	65	16	5	福岡	29	—	—	4	福岡	9

5 2008年に横浜で開催された主な国際コンベンション

会議の内容では、医学系が最も多く、科学技術(IT、通信)、環境(バイオなど)のほか、社会・文化をテーマにしたものも増えています。

開催月	会議名	会場	参加国数 (日本含む)	参加者総数 (うち外客数)
5月	第4回アフリカ開発会議(TICADIV)	パシフィコ横浜	85	7,000 (3,000)
7月	第11回国際リポソーム研究会議	横浜シンポジア	18	305 (74)
9月	第11回世界内視鏡外科学会(11WCES)	パシフィコ横浜	76	3,425 (1,202)
9月	第15回国際栄養士会議(ICD2008)	パシフィコ横浜	59	4,621 (655)
9月	第13回アジア太平洋リウマチ学会 (APLAR2008)	パシフィコ横浜	11	6,000 (1,500)
9~10月	国際航空宇宙品質会議(IAQG)2008	パシフィコ横浜	21	300 (150)
10月	第5回世界水産学会議(WFC2008)	パシフィコ横浜	41	1,550 (500)
12月	国際統計計算学会(IASC)第4回世界大会・第6回アジア大会 合同国際会議	パシフィコ横浜	21	500 (200)

以上